



ホセ・リサール『ノリ・メ・タンヘレ（私にさわるな）』

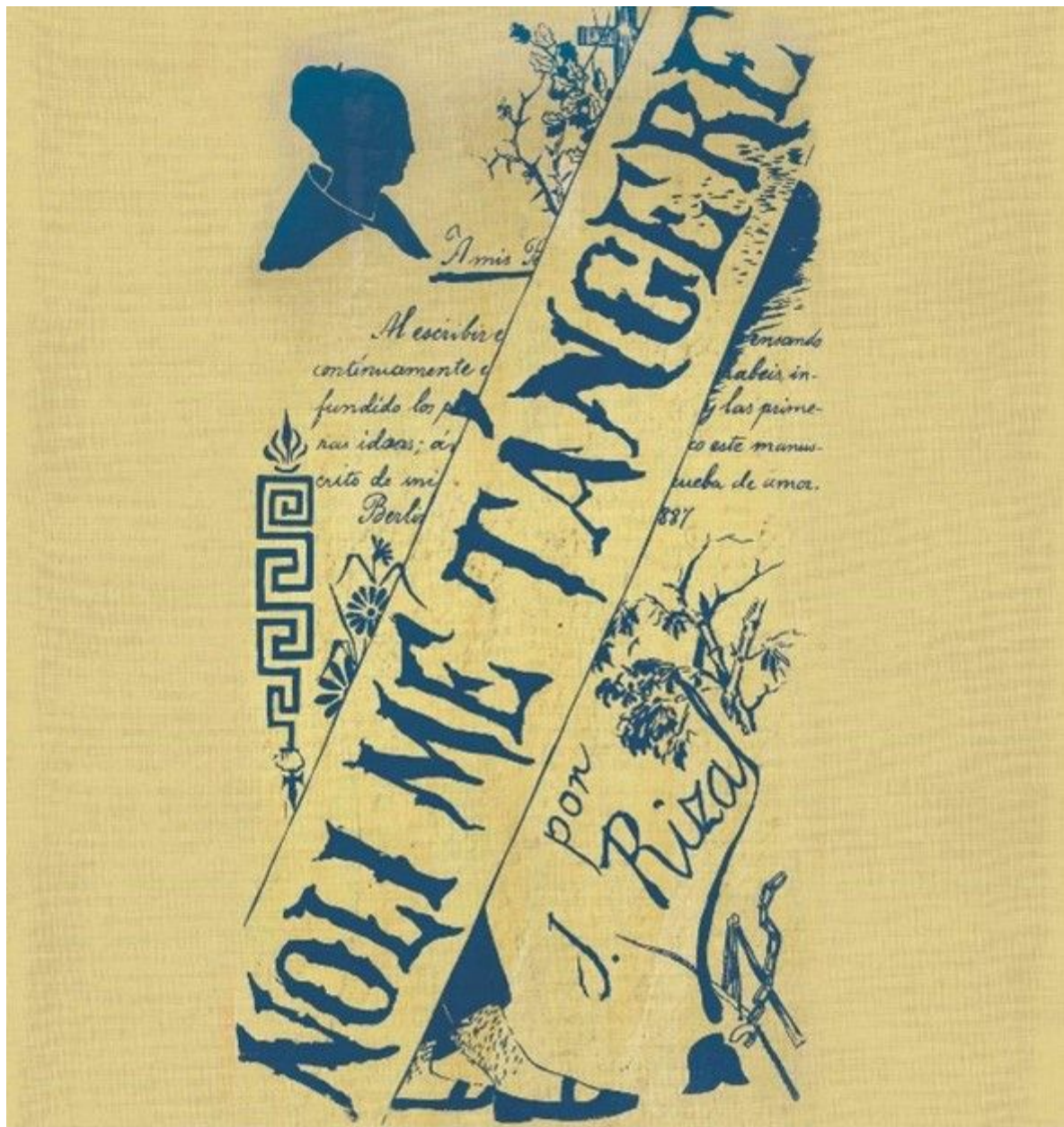
宮脇聡史

フィリピン人知識人のホセ・リサールが1887年に遊学中のベルリンで出版したスペイン語の小説。植民地フィリピンで近代的な社会改革を志した青年が、植民地を牛耳る修道会に反逆の濡れ衣を着せられて逃亡する物語。題は癌の隠語であり、植民地フィリピンの深刻な病理が物語の中で活写される。主人公が植民地の転覆を企む続編『エル・フィリブステリスモ El Filibusterismo（反逆者）』と共にフィリピンで発禁処分となる。その後スペイン当局によって処刑されたリサールはやがてフィリピンの国民的英雄とされ、これらの小説は学校教育で必修となっているが、もはやスペイン語話者はほとんどいないため、主に翻訳に依っている。またこの小説は世界的な帝国主義が頂点に達する時代の衰えた帝国の支配下であって、自由主義経済の波に飲み込まれ、多言語・文化の飛び交う19世紀グローバル植民地都市としてのマニラを、広い視野で描き出したスケールの大きい文学でもある。



ホセ・リサル

出典: https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/b/b0/Jose_rizal_01.jpg



PENGUIN  CLASSICS

JOSÉ RIZAL

Noli Me Tangere
(Touch Me Not)

書籍のオリジナルの表紙を用いたペンギンブックスの英訳の表紙

出典: <https://images-na.ssl-images-amazon.com/images/I/81fv7F7APzL.jpg>

出典:

- 『ノリ・メ・タンヘレーわが祖国に捧げる』（フィリピン双書（1））（翻訳：岩崎玄、井村文化事業社、1976年）

スペイン語からの翻訳。フィリピン大学で教鞭をとっていた訳者が、フィリピン史の専門家のアドバイスを受けつつ翻訳した訳業で、語調こそやや古めかしいが、歴史や社会背景に関する詳細な注やしっかりとした解説が付された優れた書物となっている。

- Jose Rizal, *Noli Me Tangere: Touch Me Not* (Harold Augenbraum (translation), Penguin Classics (paperback), 2006)